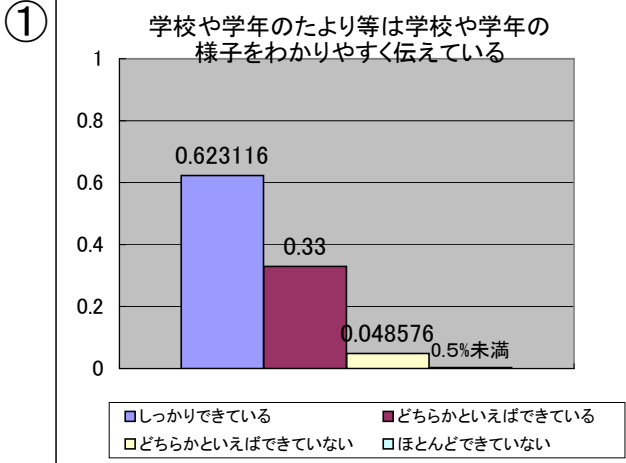


数値: 小数点第1位を四捨五入して表記

補足: 0.5%未満は、四捨五入すると0%の表記になってしまう。そのため、回答者が数名いる項目は「0.5%未満」と表記する。

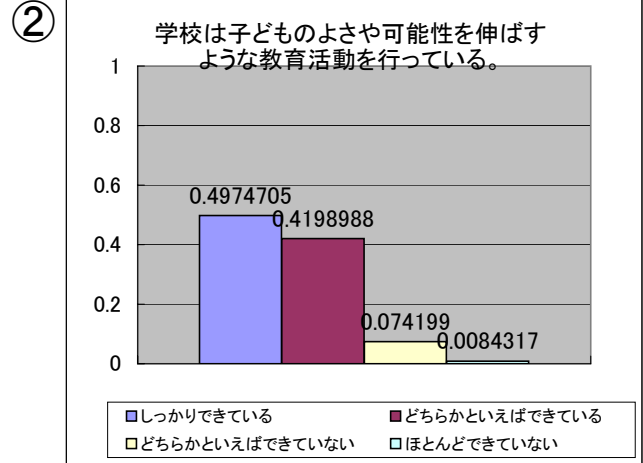
学校



1	2	3	4
62%	33%	5%	0.5%未満

95%の保護者が、学校や学年のたよりが学校での様子をわかりやすく伝えていると回答していることから、保護者に学校の様子を伝える情報源として機能していることがわかる。しかし、「できていない」の5%の回答にも目を向け、今後も、より読みやすくわかりやすいたよりを作成していけるよう工夫していく所存である。

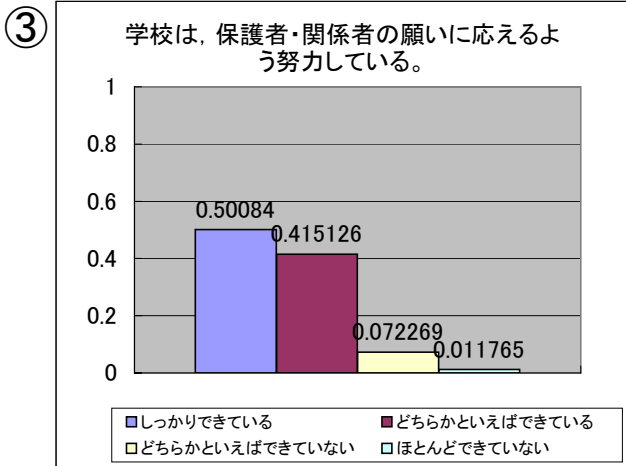
学校



1	2	3	4
50%	42%	7%	1%

90%以上の保護者が、子どものよさや可能性を伸ばす教育活動を行っていると回答している。その一方で、「できていない」と回答した保護者が8%いる。そのことを真摯に受け止め、一人ひとりの教員のスキルアップや、教育活動を行ううえで必要な共通理解事項の確認など、きめ細やかな指導を行うことができるように心がけていくべきだと認識している。

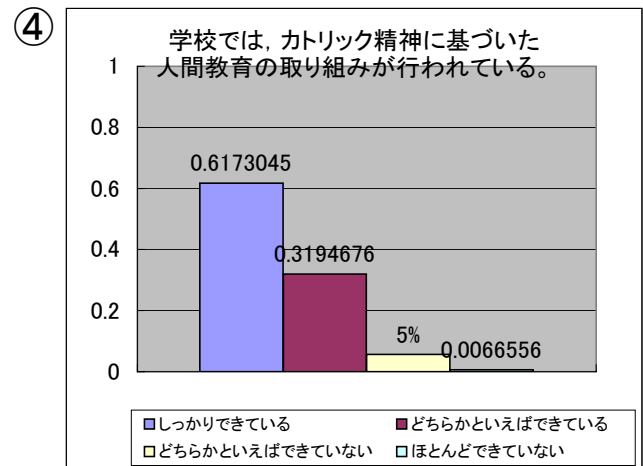
学校



1	2	3	4
50%	42%	7%	1%

90%以上の保護者が、学校は保護者・関係者の願いに応えるよう努力していると回答している。今後も、さらに保護者のニーズに対して誠実に応えていくために、より具体的な保護者や関係者からの願いを把握し、学校と家庭の連携を図って、よりよい関係作りを築いていくことができるよう努めていくべきだと認識している。

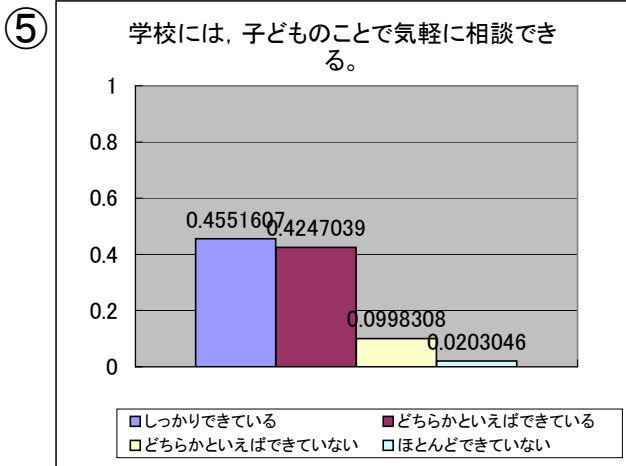
学校



1	2	3	4
62%	32%	5%	1%

本校の教育の根幹であるカトリック精神に基づいた人間教育の取り組みに関しては、たくさんの保護者が理解してくれていることがわかる。この取り組みに関しては、宗教的行事だけでなく、普段のどの生活場面においてもこの精神をもとにして取り組む必要がある。そして、宗教だよりの発行や、学校だよりに宗教的内容を載せるなど、様々な活動を家庭などに知らせ、より一層理解していただけるよう努めていくべきであると認識している。

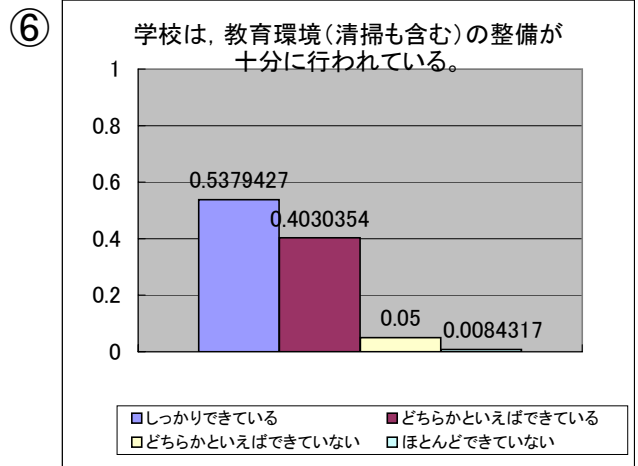
学校



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
46%	42%	10%	2%

88%の保護者が学校に気軽に相談できると回答している。気軽に相談できる雰囲気づくり、環境づくりを進める上では、保護者とのコミュニケーションをしっかりとることが必要である。保護者との信頼関係をより一層築くために、学校での出来事や子どもたちの様子を伝えることができるよう努力していくべきであると認識している。

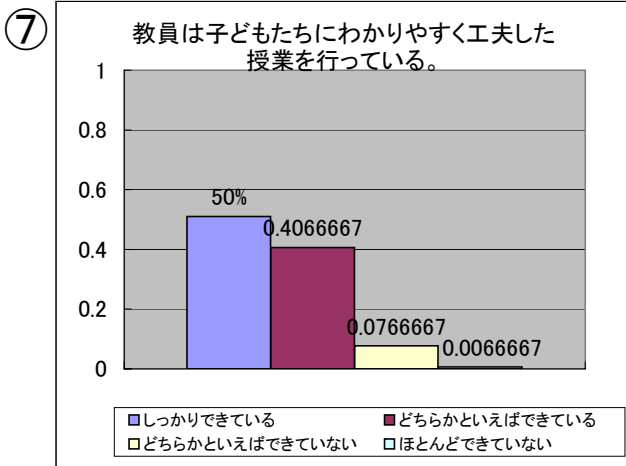
学校



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
54%	40%	5%	1%

昨年度と比べ、「しっかりできている」との回答が増加した。掲示板の設置や机・椅子の入れ替えなど、環境整備を強化してきたことが結びついてきていることが伺える。今後も、子どもたちが気持ちよく学校生活を送れるよう、日々の清掃活動や環境整備に積極的に取り組んでいく所存である。

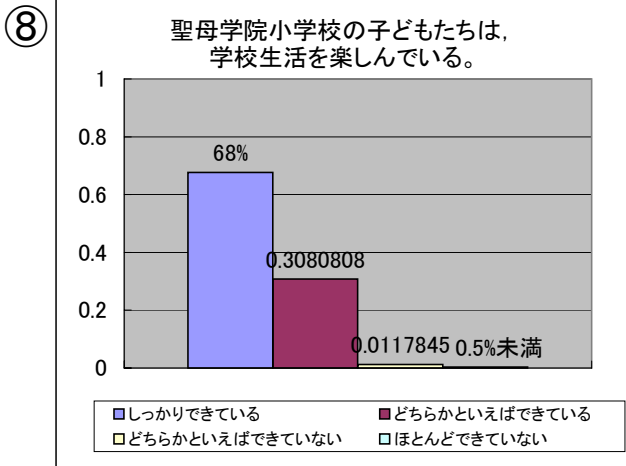
学校



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
50%	41%	8%	1%

91%の保護者がわかりやすく工夫した授業を行っていると回答している。しかし、昨年度と比べるとその値は4%減っている現状がある。このことを真摯に受け止め、校内での授業研究や各教員の個々に応じた研修の実施など、日々の授業の質を向上させるための取り組みをより充実させていく必要がある。

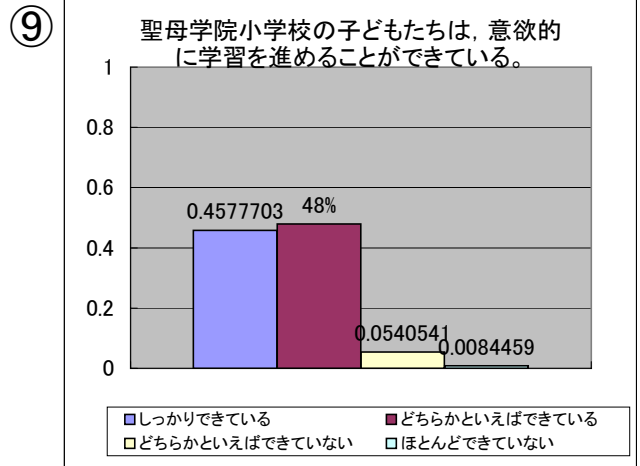
子ども



しっかりできている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	ほとんどできていない
68%	31%	1%	0.5%未満

99%の保護者が、子どもは学校生活を楽しんでいると回答している。しかし、楽しめていない児童も少なからずいる。そのことを真摯に受け止め、子どもとの細やかなコミュニケーションを図ること、日ごろの子どもたちの変化に目を配り、耳を傾けながら、温かく見守っていくことができるよう努めていくべきであると認識している。

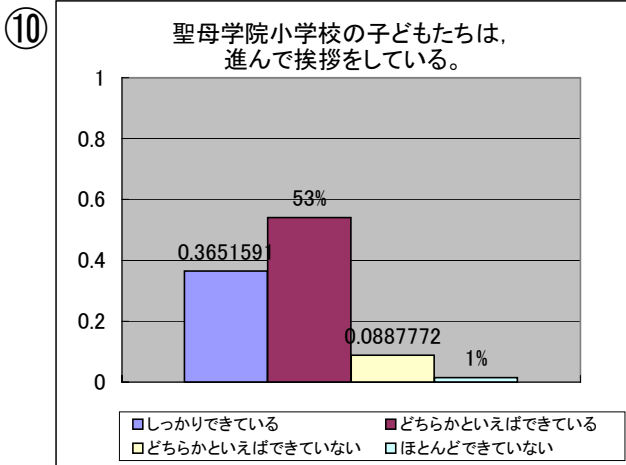
子ども



しっかりできている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	ほとんどできていない
46%	48%	5%	1%

94%の児童が学習を意欲的に進めていると回答しているが、「どちらかといえはできている」の値が高く、「できていない」と回答している保護者も6%いる。そのことを真摯に受け止め、各教員がより一層子どもをひきつける授業の実践を研究し、意欲的に学ぶことのできる環境作りを進めていく必要がある。

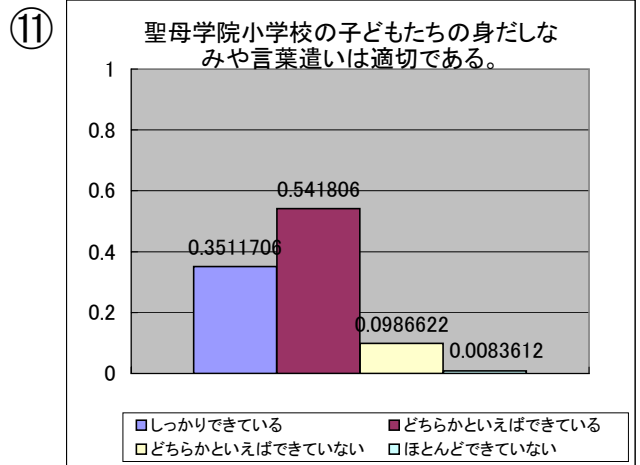
子ども



しっかりできている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	ほとんどできていない
37%	53%	9%	1%

91%の保護者が子どもたちは進んであいさつをしていると回答しているが、「しっかりできている」が37%と昨年度と比べても低い値となっている。人間関係を築く上での基本となるあいさつは、一人ひとりの心がけしだいでの方向に進んでいく。今後も、子どもたちへの呼びかけや指導を積極的に行っていくことで、気持ちのよいあいさつを広げていけるよう努めていく所存である。

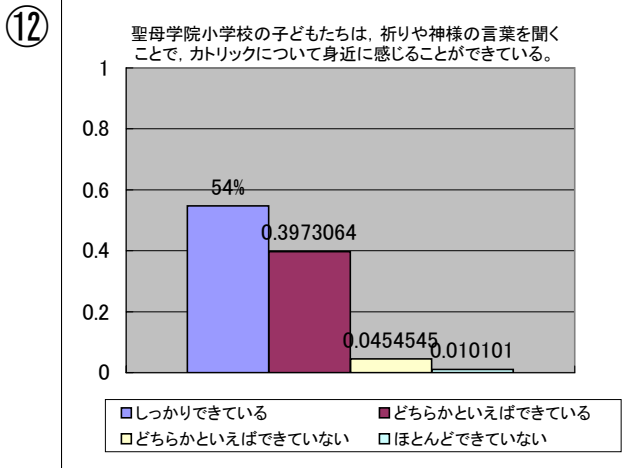
子ども



しっかりできている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	ほとんどできていない
35%	54%	10%	1%

90%近くの保護者が適切であると回答しているが、⑩と同様に、「しっかりできている」の値が低い。子どもたちの身だしなみや言葉遣いに、しっかりと気を配り、全教職員が指導に対する共通理解をするとともに、言葉遣いの重要性を子どもたちに指導していく必要がある。

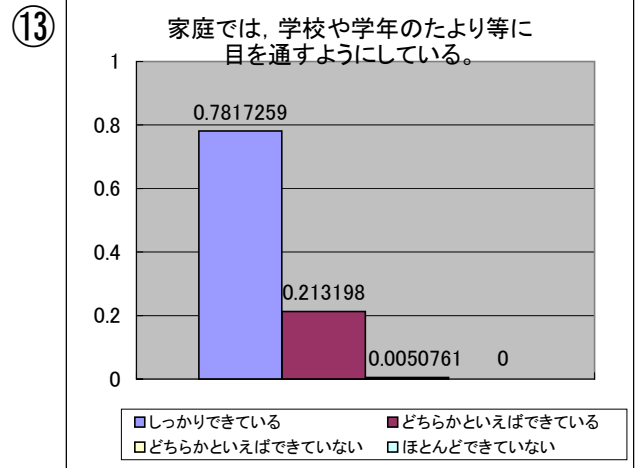
子ども



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
54%	40%	5%	1%

94%の保護者ができていると回答していることから、日々の祈りや神様の言葉が児童にとって身近な存在になっていることがわかる。今後も、宗教的行事の内容をさらに充実させること、心を込めた祈りの実践や日々の生活の中での教員からの言葉かけを心がけ、カトリックを身近に感じることができるよう努力していく所存である。

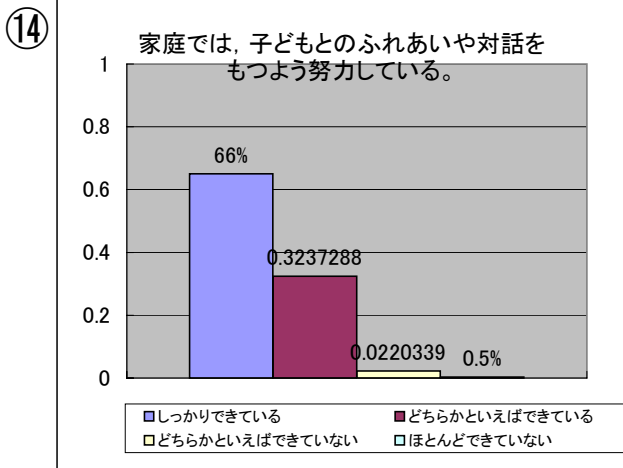
家庭



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
78%	21%	1%	0%

昨年と同様、ほとんどの保護者がたよりに目を通し、学校や学年・学級の様子把握に努めていることに感謝したい。本校の保護者が学校の教育活動に高い関心を持っていることが伺える。今後も、たよりの内容を精選し、学校での様子をよりの確に、わかりやすく伝えていくことができるよう努めていく所存である。

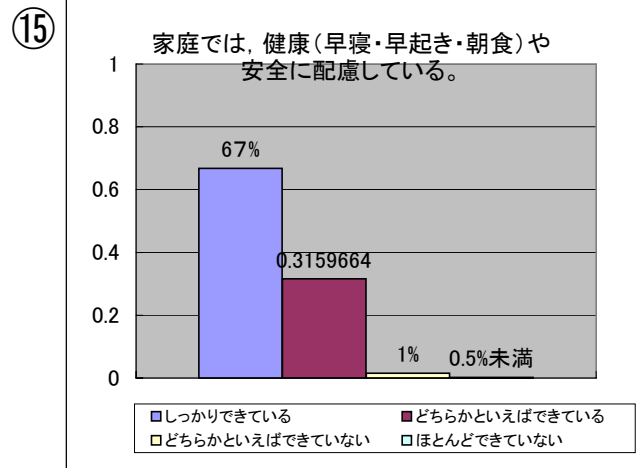
家庭



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
66%	32%	2%	0.5%未満

98%の保護者が子どもとのふれあいや対話の時間を持つよう心がけていることがわかる。家庭でのふれあいや対話は、子どもの学校での生活の様子を知るだけでなく、子どもの抱えている思いを受け止め、落ち着いた学校生活を送るためにも大変有効である。今後も家庭で子どもとのふれあいを大切にしていってほしい。

家庭

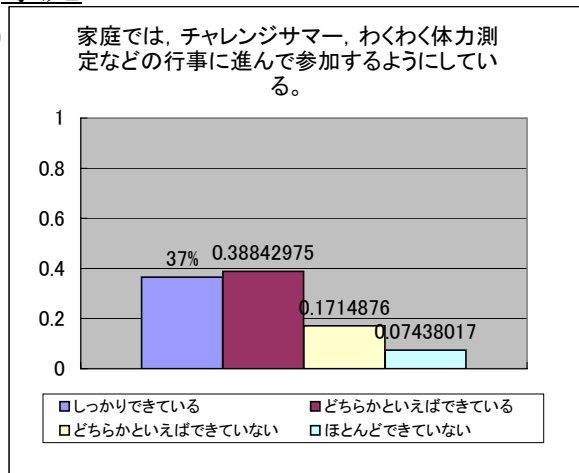


しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
67%	32%	1%	0.5%未満

子どもの健康に配慮している保護者が97%と高い値を示し、昨年度よりも「しっかりできている」の値が増加している。その一方で、「できていない」と回答している保護者もいることが伺える。早寝、早起き、朝食の基本的な生活習慣の充実が、子どものよりよい成長の基盤となることを引き続きしっかりと伝えていく必要がある。

家庭

⑩

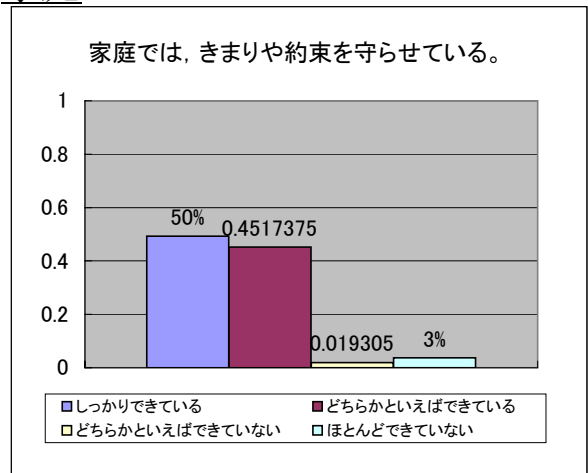


しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
37%	39%	17%	7%

多くの児童が学校行事に参加している。しかし、参加していない児童が昨年度と比べて増えていることも伺える。習い事などの家庭の事情によるものもあると考えられるが、学校行事の内容を児童の興味や必要性のあるものにしていくとともに、その魅力を伝えていくことも必要である。

家庭

⑪



しっかりできている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	ほとんどできていない
50%	45%	2%	3%

昨年度と比べ、「しっかりできている」の値が少し低くなっており、「ほとんどできていない」の値が少し増えている。きまりや約束を守れることを徹底し、規律ある生活態度を身につけることは、子どもたちの規範意識を高める上で大変重要である。自分の力できまりや約束を守ることができるよう指導していく必要がある。

《学校関係者からのコメント》

- 今後、回答数が増えるような手だてを工夫する必要がある。
- 低学年・高学年に分けて分析するなど、分析方法を工夫し、より実態がつかめるようにする必要がある。
- 過去のデータとの増減など、変化を比較した際の考察については、具体的数値で表現することで、より実態がつかみやすくなる。また、考えられる要因を具体的事象をもとに考察を加え、よりよい子どもの育成につなげてほしい。
- 挨拶に関して、「しっかりできている」より「どちらかといえばできている」の方が多い。出会った人や外部からの来客者に対しても、より積極的に明るく元気な声で挨拶のできる子どもを育てることが大切である。また、保護者の方から率先して挨拶をすることで児童のよいお手本となる。
- 登校班の実践も本校の特色の一つである。そのため、登校班についての状況がわかるような問いかけを設け、公共でのマナーを守って行動できる誠実な子どもの育成につなげてほしい。